

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ナウ

Network Now

2020 No.537

9 / 1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



2020年度 新任会長会議 (Web会議) 開催される

2020年7月23日(木・祝)、本会事務所会議室およびWebで2020年度新任会長会議が開催された。本会からは上田克彦会長、江藤芳浩副会長、富田博信副会長、児玉直樹副会長、中村勝業務執行理事、江端清和理事、江田哲男理事、加藤博之課長の8人。各県からは新潟県診療放射線技師会 小林功会長、千葉県診療放射線技師会 滝口裕会長、山梨県診療放射線技師会 宮崎旨俊会長、石川県診療放射線技師会 森下毅会長、奈良県放射線技師会 高谷英明会長、広島県診療放射線技師会 木口雅夫会長、大分県放射線技師会 吉田幸人会長の7人の新任会長が出席した。

初めに上田会長より、先月の第81回定時総会で新体制となり発足間もないところだが、都道府県の技師会と共に技師会事業を進めていき、実りある診療放射線技師資格の向上を図っていきたいとあいさつされた。

続いて各県技師会の新任会長と本会役員の自己紹介があり、会議は進行された。

会議の内容は、「JARTの事業について」「会場型講習会開催ガイドライン(新型コロナウイルス感染対策)」「第36回



学術大会について」「地域における養成校設立と業務拡大に伴う統一講習会について」「アンケート調査(業務実態・給与・診療報酬関係)の協力について」「都道府県との業務委託契約について」「JART組織と表彰規程について」「新任会長からの要望について」であった。

「JARTの事業について」では、上田会長より2020年度の事業計画の説明がなされた。続いて中村業務執行理事より、新型コロナウイルス感染対策の本会ガイドラインである「会場型講習会開催ガイドライン(新型コロナウイルス感染対策)」について説明がなされた。「第36回学術大会について」も中村業務執行理事より、10月の開催は中止となり1月にWebでの開催になること、また開催までのタイムスケジュールについて説明がなされた。「地域における養成校設立と業務拡大に伴う統一講習会について」では、児玉副会長より専門学校の設置認可について、実例を基に診療放射線技師の大学養成教育の必要性が述べられた。「アンケート調査の協力について」では、江藤副会長よりこれまでの実績についての





説明と、今後の調査活動予定と協力についての要請があった。「都道府県との業務委託契約について」では、江端理事より説明がなされた。「JART組織と表彰規程について」では、資料を基に江田理事より説明がなされた。

最後に、各県新任会長から本会への希望・要望の意見が出された。主な内容は、Web会議を積極的に導入してもらいたいこと。新型コロナウイルスの影響により事業展開が図られていない状況について。また新たな養成カリキュラムが開始された場合は、新しい統一講習会などを考えているのか——などの意見や質問が寄せられた。上田会長からは、新カリキュラム導入後の既卒者教育や、現在進められているタスク・シフトなどの医師業務からの移譲への対応として、新しい統一講習会なども検討すると述べられた。

その他、各議題について多くの質問が上がり、盛会のうちに閉会となった。

第36回日本診療放射線技師学術大会（宮城大会）のWeb開催が決定しました

INFORMATION

第36回日本診療放射線技師学術大会につきましては、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響により、当初予定していた10月23日（金）から25日（日）までの会期における現地開催を見送り、7月4日（土）の理事会において、規模を縮小してWeb上で開催することが決定しました。

1. 開催方法

Web開催。ライブ配信は行いません。

一般演題は静止画、講演などはオンデマンド配信による視聴とします。

2. 会期

2021年1月9日（土）から31日（日）までで検討中です。

11月の会告でお知らせし、その後、参加申し込みを開始する予定です。

3. 内容

- 1) 会長講演
- 2) 教育講演
- 3) 本会企画による講演
- 4) 宮城県放射線技師会の実行委員会が企画するベーシックセミナー
- 5) 一般演題
- 6) 企業展示

Web開催は初めてですが、これからの時代、Webを併用する開催について検討が必要になるかもしれません。今後、本会の学術大会実行委員会と宮城県放射線技師会の実行委員会で準備を進めます。詳細が決まり次第、会誌・Webサイトなどでお知らせ致します。ご協力をお願い致します。

上田会長 日本医学放射線学会を訪問

2020年7月30日(木)、本会上田克彦会長は、日本診療放射線技師連盟新理事長 芳士戸治義氏と共に、役員改選のご報告と会長就任あいさつのため、日本医学放射線学会 青木茂樹理事長を訪問した。また同日開催された日本医学放射線学会理事会の冒頭で、青木理事長より上田会長のご紹介があり、上田会長は、関係団体との協議を開始し本会としての役割を明確にしつつ、より強い関係性の構築に取り組んでいくこと、また放射線診療全体を盛り上げていくためにも、今後ともご指導いただきたいと伝えた。また8月3日(月)には、青木理事長が本会事務所にあいさつに來訪された。



本会への入会手続きについて (お知らせ)

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- ① 本会ホームページ (<http://www.jart.jp>) から“新規入会はこちらから”をクリック
- ② 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。

TEL : 03-5405-3612 E-mail : info@jart.or.jp

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。

INFORMATION

2020年度 第1回JART-JIRA懇談会 開催される

2020年7月15日(水)、2020年度第1回JART-JIRA懇談会がWeb会議で開催された。本会からは上田克彦会長、江藤芳浩副会長、富田博信副会長、児玉直樹副会長、中村勝業務執行理事、江端清和理事、上島隆事務局長が出席し、JIRAからは山本章雄会長、稲葉潔業務執行理事、浜原公幸法規・安全部会長、鍵谷昭典経済部会長、渡辺良事務局長、横田則昭総務部長の出席を頂いた。

懇談会は両会長のあいさつで和やかに始まり、本会より2020年度・2021年度執行体制の説明、第36回日本診療放射線技師学術大会へのご協力についてお願いした。JIRAからは最近のJIRAの活動、経済部会報告、法規・安全部会報告が行われ、本年度も引き続き両会の連携の強化が確認され終了した。

上田会長 日本医師会を訪問

2020年7月16日(木)、本会上田克彦会長は畦元将吾議員と共に、役員改選のご報告と会長就任あいさつのため、日本医師会の中川俊男新会長を訪問した。上田会長は、「会長としての目標 (JART会誌8月号ならびにホームページ掲載)」を踏まえ、関係団体との協議を開始し本会としての役割を明確にしつつ、より強い関係性の構築に取り組んでいくことを伝えた。



チーム医療推進協議会代表 来訪される

2020年7月29日(水)、チーム医療推進協議会代表である半田一登氏(日本理学療法士協会会長)ならびに事務局長兼相談役の北村善明氏(本会元会長)が、上田克彦会長にあいさつのため本会事務所を来訪された。



社会活動表彰 (江間賞) ならびに学術奨励賞受賞者

本会表彰規程より、江間賞は、前年度の社会活動カウントの上位取得者で社会活動の内容などが優れている者とし、地域性を考慮した特に優れている者10人以内に授与されることになっている。

また学術奨励賞は、積極的な自己研鑽^{けんさん}により診療放射線技師としての資質向上に努め、医療および公衆衛生の普及および向上に貢献した者に授与されることになっている。対象者は表彰を受ける前年度の本会生涯教育カウントの取得上位者となっている。

本年度の受賞者は、表彰委員会が7月4日(土)開催の第4回理事会に答申し、決定された。

受賞者は右記の通り。おめでとうございます。

なお、本会表彰規程により授賞式は日本診療放射線技師学術大会において執り行うことになっているが、本年度の学術大会はWeb開催となったため、授賞式の開催は未定であり、次回理事会において決定される。

江間賞	学術奨励賞
(滋 賀) 福田 哲也	(北海道) 宮本 直武
(岐 阜) 吉田 直哉	(埼 玉) 中根 淳
(秋 田) 川又 渉	(岡 山) 田淵 真弘
(香 川) 小椋 一作	(大 阪) 須賀 龍也
(神奈川) 中 直樹	(東 京) 小田 正記
(大 分) 土谷 豊	(愛 媛) 渡辺 真由美
(茨 城) 横田 浩	(奈 良) 小林 勝宏
(北海道) 中島 広司	(埼 玉) 諸澄 邦彦
(岩 手) 村上 龍也	(東 京) 米澤 俊和
(岩 手) 藤原 薫	(愛 知) 長谷川 義朗

(順不同)

ECR2020、Voice of EPOS、ISRRT Meets JapanのWeb開催が決定しました

INFORMATION

ECR2020は、2020年3月11日(水)から15日(日)までオーストリアのウィーンで開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、7月15日(水)から19日(日)までに開催が延期されました。しかし、その後も新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらないことから、会場での開催を断念し、Web上での開催が決定しました。これを受けて、JARTとESRで予定していたVoice of EPOS Japanese SessionもWeb開催となり、またJARTとISRRTで予定していたISRRT Meets JapanについてもWeb開催になることが決定しました。

なお、7月15日(水)から19日(日)までECR 2020 Online Summer Editionが開催され、診療放射線技師主体のセッションについてはECR 2020 Online Highlight Week #7 Radiographers / Physics in Medical Imagingとして開催されることになりました。ECR 2020 Online Summer Editionは世界から15,265人、日本からは347人が参加しました。

Japanese Sessionも含めて、**全てのVoice of EPOSはMP4ファイルをアップロードし、7月15日(水)から12月31日(木)までWeb上で視聴できるようになっています。**Voice of EPOSは<https://connect.myesr.org/>で視聴できますので、参加登録をされている方はぜひご視聴ください。またISRRT Meets Japanについては、**10月27日(火)から29日(木)まで開催されるECR 2020 Online Highlight Week #7 Radiographers / Physics in Medical Imagingで視聴できます。**テーマは「Radiography profession performance and future challenges in Japan」となります。こちらもぜひご視聴いただきたいと思います。

本会の医療被ばくガイドライン策定の変遷とDRLs2020

副会長 江藤 芳浩

本会は、医療放射線防護における最適化を会員に周知することを目的に独自にガイドライン策定に着手し、2000年に「医療被ばくガイドライン（患者さんのための医療被ばく低減目標値）」を公表しました。2009年にはその改訂版である「放射線量適正化のための医療被曝ガイドライン」を一般書籍として出版し、長い間、多くの会員に最適化の指標として参考にさせていただきました。

その後、本会が医療被ばく研究情報ネットワークJ-RIME（Japan Network for Research and Information on Medical Exposures）の構成団体として参画し、診断参考レベル「DRLs2015（Diagnostic Reference Levels 2015）」が公表されました。2015年以降についてはDRLs2015を利用するところですが、DRLs2015の掲載項目（検査種）数が本会の医療被ばく低減施設認定の審査に対応できないことから、本会としては項目を補完した「医療被ばくガイドライン（診断参考レベルDRLs2015の公表を受けて）」を改訂版として公表し、現在まで活用していただけたところです。

さて、このたびJ-RIMEより診断参考レベル「DRLs2020」（2020年7月3日）が公表されました。DRLs2020では、DRLs2015と比べおおむね数値が同等

かやや低値となっており、特に、小児CT・歯科撮影領域・IVR（Interventional Radiology）・診断透視・SPECT-CT・PET-CTに関する項目が主な改正点になります。詳細については、医療被ばく安全管理委員会が本会会誌10月号に掲載予定の「日本の診断参考レベル（2020年版）の概要と運用上の注意点」をぜひご覧ください。なお、医療被ばく安全管理委員会はすでに次回の診断参考レベル改正を見据え、J-RIME事務局に小児CTでの逐次近似の有無による結果の提示、診断透視における小腸造影検査の追加、パノラマX線撮影での簡便な線量評価方法の提示に関する意見書（2020年6月3日）を提出しています。

DRLs2020の公表により、最適化の指標として利用されてきた本会の「医療被ばくガイドライン」は役割を終えたと考えますが、20年前に先見の明をもって医療被ばくガイドライン策定に取り組まれた諸先輩方の功績に、心より敬意を表します。

診療用放射線に係る安全管理体制に関する規定が2020年4月1日に施行され、すでに全国の医療施設で放射線管理体制の見直しや整備が行われていることと思われませんが、DRLs2020を参考に、放射線検査のさらなる最適化に取り組んでいただければ幸いです。

医療安全推進週間の実施について

厚生労働省では、2001（平成13）年度より毎年11月25日（いい医療に向かってGO）を含む1週間を「医療安全推進週間」と位置付け、医療安全対策に関し、医療関係者の意識向上、医療機関や医療関係団体における組織的取り組みの促進などを図るとともに、国民の理解と認識を深めることを目的とし、医療安全対策の推進を図り、さまざまな事業を実施しています。

本年度も11月22日（日）から11月28日（土）までを「医療安全推進週間」とし、医療安全対策の普及・啓発活動を全国的に実施します。本会も後援団体となっています。

これまでの「医療安全推進週間」については、厚生労働省のホームページ（以下URL）で紹介されています。

<https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/i-anzen/torikumi/>

AI(人工知能)が感性の領域へ進出!?

シリーズ連載
series serialization



五感 — five senses

コロナ禍で^{ほんろう}翻弄されている中、AI(人工知能)技術の一つであるエーライフ(人工生命)が音楽や美術といったアートの世界にも進出してきたという、衝撃的なAI関連の記事を目にした。

AI技術は、第1次、第2次ブームを経て、現在は第3次ブームといわれている。

エーライフは、第3次ブームきっかけの一つ「深層学習(ディープラーニング)」によるもので、さまざまな分野での活用が期待されている最先端の研究である。私には想像も及ばない知識レベルであるが、音楽や美術で斬新な表現や奇想天外な傑作を生み出すという話題に興味を湧いた。

記事によると、音楽の分野でアンドロイド・オルタ3(ロボット)が左手を振り下ろした指揮により、学生で結成されたオーケストラがタイミングをそろえて演奏したという。内容としては、自発運動プログラムを搭載したカメラで人の動きを捉え、その記憶を自ら読み出して人間の神経細胞を模したシステムで「揺らぎ」を加えた上で、ロボットが人との相互作用により、人間が持ち合わせていない表現・個性を生み出すというものである。最終的には、アンドロイド・オルタ3(ロボット)と人間の演奏者が共に創造する新たな音楽表現が生まれることを目的としており、今後も研究を進めるという。

美術の分野では、上半分が損傷してしまったクロード・モネの絵画「睡蓮、柳の反映」を復元するに当たり、モネの彩色パターンをAI(人工知能)に学習させ、色合いを推定させて描いた絵と人間(画家)が推定した絵を基に、損傷前の全体像をデジタル画像でよみがえらせたという。今回の研究では、あくまでも人間の推測が復元作業を主導し、AIはその蓋然性(確

実かどうかの度合い)を補強する材料にとどまったとしている。

本来、人間に備わっているとされる知的能力には理性、感性、悟性がある。その一つである感性は、印象を受け入れる能力とされ、感覚を伴う感情、衝動や欲望だといわれる。その能力をAIが持ち合わせたとすれば、人間にとってはある意味で脅威となり、一時期、AI技術の発展により今後消滅する職種として、診療放射線技師の名前がマスメディアに挙がった記憶が鮮明によみがえる。

AIの技術は「課題」を与えられて計算するものであるが、エーライフは与えられた課題に対して答えに縛られず、自発的な動きをする技術とされている。そのためエーライフには医療や介護の分野において、人間を超えた認識技術による画像診断をはじめ、健康アプリ・コミュニケーションツール・新型コロナウイルス感染症を治療する技術として大いに期待したい。しかしながら、その一方で人間を補完する立場にとどめてほしいという妙な感情も湧く。

今、日本中、世界中で新型コロナウイルス感染症のニュースがあふれ、多くの人々がパンデミックの恐怖を肌で感じる時代を迎えているが、皮肉にも「1番にはなりたくない」という理性を失った狭い^{さいな}了見に苛まれているのも、感性を持ち合わせた人間らしさであり、本音でもあるかもしれない。

不本意であっても、現状においては今までの生活様式を一変するという意識の中で、改めて理性、感性、悟性を持ち合わせた人間らしい生き方をしていきたいと思う今日この頃である。(読売新聞記事一部引用)

(文責:高嶋敏光)

本会会誌論文投稿方法が変更になります! (オンライン投稿システム)

これまで論文を投稿する際は、本会編集委員会へ郵送していただいていたおりましたが、**2020年11月1日よりオンライン投稿システムをご利用いただくことが可能となりました**のでご報告致します。ただし、10月31日までの投稿は従来通りとなりますのでご注意ください。

なお、投稿規程なども改定致します。改定し次第、ホームページに掲載させていただきます。

INFORMATION

9月・10月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- 医療放射線安全管理責任者講習会：
 - 第1回：東京 9月21日(月・祝) **【中止】**
 - 第2回：東京 9月22日(火・祝) **【中止】**
 - 第3回：愛知 9月27日(日) **【中止】**
- 超音波実技講習会「腹部領域」：
 - 第1回：東京 9月27日(日) **【中止】**
 - 第2回：東京 10月11日(日) **【中止】**
- 画像等手術支援認定講習会： 北海道 10月10日(土)～11日(日)
- 画像等手術支援認定診療放射線技師認定資格試験： 10月25日(日)

九州地区2会場、中四国地区1会場、関西地区1会場、東海地区1会場、関東地区2会場、東北地区1会場、北海道地区1会場

※受験会場についてはホームページでお知らせします。 <http://www.jart.jp>
- 放射線取扱主任者定期講習： 東京 10月30日(金)

※新型コロナウイルスの感染状況により、開催中止または開催方法が変更になる場合があります。

ホームページ閲覧のお願い

INFORMATION

「業務拡大に伴う統一講習会」および「診療放射線技師基礎技術講習」の開催日程につきましては、ホームページで随時更新しておりますので、そちらをご参照ください。

- 「業務拡大に伴う統一講習会」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/schedule.html
- 「診療放射線技師基礎技術講習」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/ib0rgt000000603l.html

会員情報システム (JARTIS) 更新に伴う、会費・受講料等の支払い方法の変更について

INFORMATION

本会では、会員の皆さまの会費・受講料等の支払いの利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化に向けた取り組みを推進しております。

このたびのJARTIS更新に伴い、以下の通り支払い方法の変更を計画しております。

まず、8月初旬の新JARTIS稼働に合わせて従来の方法に加え、これまでご要望の多かった「クレジットカード払い」ができるよう変更し、その後、2024(令和6)年度をめどに完全ペーパーレス化を進めてまいります。

皆さまにおかれましては、ご承知おきいただくとともに、移行に当たりご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人日本診療放射線技師会 財務委員会・事務局

会費・受講料等の支払い方法について

	2019 (令和1) 実績	2020 (令和2) 7/9まで	2020 (令和2) 8/10	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)
コンビニ払込票	25,493	●	●	●	●	●	●		
コンビニペーパーレス	2,600	●	●	●	●	●		●	●
郵便局	8,596	●	●	●	●				
銀行払込票	1,107	●	●	●	●				
銀行ペーパーレス	-	▲	▲	▲	▲	●	●	●	●
クレジットカード	-		●	●	●	●	●	●	●

(1) 新情報システムリリース(2020(令和2)年8月10日)より、クレジットカード払いに対応致します。
 (2) 2022(令和4)年度をもって、郵便局および銀行払込票を中止致します。
 (3) 2023(令和5)年度より、銀行ペーパーレスを本格的に実施致します。
 (4) 2025(令和7)年度より、完全ペーパーレス化致します。
 (5) 会員の支払い方法の割合により、計画は前後することがあります。
 (6) 今後、社会において新しい支払いサービスが登場したら、随時検討致します。

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。